

産地戦略

実施期間 令和6～10年度

実施主体 栃木県
都道府県 栃木県
対象地域 上都賀地区（日光市）
対象品目 くら



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

本県におけるには、夏秋期の出荷量が減少傾向で、出荷量の拡大には夏にらの生産安定が必須となっている。特に問題となるのはアザミウマ類や白絹病の防除で、現在は薬剤防除で対応しているが、散布作業や薬剤費が負担となっている。

昨年度、防虫ネットや高うね栽培を取り入れた栽培法により、盛夏期の高い病害虫防除効果が明らかになったところであるが、化学農薬の低減技術をより広く普及するため、通常の栽植様式（高うねでない）で「赤色防虫ネット」と「アザミウマ類の土着天敵利用」を導入して化学合成農薬使用量を低減し、さらに「遮熱シート」を取り入れることで、防虫ネット展張による高温を低減する。

これらにより、夏にら生産の安定と省力化が両立され、当該地域のみならず、県内のにら生産者に広く普及することができる。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		1番刈り	6月：化学農薬散布 3回	9月：収穫終了								捨て刈り	
	0番刈り		2番刈り	7月：化学農薬散布 3回	3番刈り	8月：化学農薬散布 3回	4番刈り						
技術名													

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名			1番刈り					9月：収穫終了				捨て刈り	
	0番刈り		2番刈り	7月：化学農薬散布 1～2回	3番刈り	8月：化学農薬散布 1回	4番刈り						
技術名			6月：赤色ネット、ファスナーネット、遮熱フィルム展張										

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	10	▶ 10	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.1	▶ 0.3	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	—	▶ —	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	—	▶ —	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学農薬のみの防除	▶ 赤色防虫ネット展張による害虫の侵入防止	化学農薬の使用回数の削減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学農薬の使用回数（回）	12	▶ 3	現状の薬剤防除 (3回/収穫×収穫回数4回=12回)
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する
(有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする)

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

- ・土着天敵を利用したアザミウマ類防除と、赤色防虫ネット展張による害虫侵入防止により、アザミウマ類、ネギコガ等の害虫全般を予防できる。
- ・赤色防虫ネットの展張により、ハウス内温度が上昇し、にらの生育停滞や白絹病等の病害が発生しやすくなるため、遮熱シートの展張によって株の消耗を抑制し、地温低下により白絹病等の病害を抑える効果が期待できる。

関係者の役割

関係者名	栃木県(上都賀農業振興事務所)	JAかみつが	農業者	
役割	<ul style="list-style-type: none"> ・事業のコーディネート ・技術指導 ・検証圃場の設計、データ収集 ・栽培マニュアル、戦略策定時の助言 ・成果の普及 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の広報 ・生産部会への波及 	<ul style="list-style-type: none"> ・データ収集 ・検証圃場の管理 ・技術の実証と導入 	

その他